



『全国大会に参加して』

連合会女性委員会委員 新海 直美

平成28年10月22日、第59回建築士会全国大会「大分大会」が大分県別府市で開催されました。全国大会は始めてだったのですが、本年より連合会の委員を務めることとなった為、交流セッションの担当もすることとなり、初めて尽くしの参加となりました。

交流セッションの準備もあり、20日の夜から別府入り。21日の午前中に時間があつた為、別府市内の工芸品や雑貨を扱うお店をいくつか回りました。目についたのが別府竹細工。つやつやとして節のない美しい佇まいが素敵で、少し手元に置きたいなど、小さなものをいくつか購入しました。お昼には大分名物の「とり天」を。温泉地獄巡りまではできませんでしたが、別府の雰囲気を楽しみました。

午後にはセッションの準備、委員会と忙しくし、夜は全国から集まった女性委員メンバーと交流会。気候・風土が違うと捉え方や生じる問題が違ってきたりして、そんな話はとても勉強になり、でも、同じ悩みを抱えている話を聞くと何だか安心したり。元気を頂

く時間となりました。

22日は10時から交流セッションです。女性委員会は「和室についての報告」です。最初に全国女性建築士連絡協議会奈良大会での報告。その後のパネルディスカッションでは3名のパネラーより、伝統的和室、地域性を活かした砺波の散居村の住まい、モダンな和室の可能性が紹介され、次世代に引き継ぐ和の魅力について語られました。ちなみに、私は司会の担当でしたが、無事に終了することができてほっとしました。

午後からは、大分焼酎「いいちこ」の醸造元、三和酒造(株)の西太一郎さんと、アートディレクター河北秀也さんの記念講演も面白く、その後に式典、夜には大交流会と盛りだくさんでしたが、私は夜のうちに福岡入りせねばならず、大交流会の途中で会場を後にしました。23日には地域交流見学会(エクスカーション)も用意されており、大分を満喫できるプログラムとなっていたのですが、残念ながら今回は見送りです。それでも、大分の魅力を感じることができ、今度はゆっくり行ってみたいと思いました。北海道とは違う土地を知れるという点でも全国大会は有意義かなと感じました。

平面から立体へ
札幌国際情報高校理数学科実習
巧 直子 (札幌支部)

札幌国際情報高校理数科の授業は2年目を迎えた。生徒に建築という分野を知ってほしいという学校側からの要望で始まったこの実習は、昨年は1年生の授業で住教育の間取りキットを使った平面計画を行ったが、進級した2年生では「平面から立体へ」を目的として模型製作を行う事になった。平面は各自が1年生で計画したものを縮尺1/50に拡大してスチレンボードで作るという内容。企画当初、講師達は模型を実際作ってみたのだが、予定時間内に完成できず、時間配分、材料選定などの準備にはかなりの検討と時間を要した。そうして迎えた当日、思わぬ事が起きた。持参する事になっていたカッターを半数の生徒が忘れたのである！何とかカッターをかき集め、何とか全員が模型作成に入れたが、既に時間のロスが生じた。果たして時間内に作れるのか…。ところが結果は予想を上回るものだった。全員が外壁・間仕切壁を立ち上げ、独創的な家具や内装を作った生徒も多数いたのである。結果として怪我などのアクシデントもなく無事実習を終える事ができた。



模型制作中の生徒たち

その後担任の山本先生のお話や生徒のアンケートでも「楽しかった」というコメントを多数頂いた。しかし、それに止まらず「立体から平面へフィードバックして全体を考える」を目標としたい。先日今年の1年生の実習も終了し、またユニークな作品が見られた。来年度以降も継続すると思われるこの実習の展開が楽しみである。



女性委員会セッション「和室についての報告」



大会式典の様子